観光の基盤産業化の推進

質問議員：國利知史

対象議会：2026年9月定例会 一般質問

議事の再開

【桂藤議長】

> 休憩前に引き続き会議を再開します。次の質問に移ります。國利知史議員。

1. 分野横断的な取り組みの進捗状況と課題

國利知史議員

議席番号8番、会派ネクストの國利知史でございます。本日私は1点、観光の基盤産業化の推進についてお伺いしたいと思います。

第3期長期総合計画では、安心な暮らしが充実し、庄原に関わる人の未来がつながっていく街を本市の目指す将来像とし、その実現に向けて安心な暮らしの充実、将来に希望がつながっていく仕組みづくり、市民の期待に応え将来を担う人的資源の育成を施策の柱に掲げるとともに、分野横断的に5つのリーディングプロジェクトを実施することで目指す将来像の実現を加速させるとしております。

リーディングプロジェクトの1つに観光の基盤産業化の推進を掲げており、観光消費額を増加させる戦略づくりを行うとしておりますが、観光の基盤産業化に向けてどのように分野横断的な取り組みを行っているのか、進捗状況と課題についてお伺いいたします。

以下の質問は質問席で行います。

【桂藤議長】

> 答弁、市長。

【八谷市長】

> ご質問にお答えいたします。

> 本年度から第3期長期総合計画の目指す姿、実現のため、5つのリーディングプロジェクトに取り組んでおります。

> プロジェクトの推進体制につきましては、主管する部署以外に関連のある部署の職員もチームに加わり、ともに事業推進の検討を行うこととしております。

> 観光の基盤産業化の推進のプロジェクトにおいては、主管する産業振興部、観光振興課のほか、経営政策部、政策企画課、経営戦略課の職員がメンバーに加わっております。

本プロジェクトはテーマが観光に特化していることから、主管課を中心とした最小構成でのスタートとしております。

本年度の事業としては第3期観光振興計画の策定と観光消費額増加のための戦略づくりを実施しておりますが、プロジェクト会議ではこれらの事業について進め方やスケジュールなど推進のベースになる事項の整理を行ってきました。

他の関係部署との連携については、今後取組が具体化する中で、各施策の推進の過程において、必要に応じて連携を行っていくよう考えております。

なお、進捗につきましては、第3期観光振興計画の策定においては、これまでに前計画の総括等を進めており、現在は計画案の記述に取り掛かっているところでございます。

また、観光消費額増加のための戦略づくりでは、策定した戦略の推進役となる観光コンソーシアムを構築することとしており、コンソーシアムへの参画に向けて関係者への声掛けを行っているところでございます。

これらの取組での課題につきましては現時点ではございませんけれども、今後連携を進める中で必要になる検討事項などについて的確に対応してまいります。

【桂藤議長】

國利知史議員。

國利知史議員

今ご答弁の中にありました進捗状況というところでございますけれども、第2期観光振興計画の総括を行っていると。そしてリーディングプロジェクトの取り組みの一つとして、観光コンソーシアムを立ち上げていくということでご答弁いただきました。

それでリーディングプロジェクトの進め方についても、担当課が連携をして進めているというご答弁をいただきました。

そこでちょっとお伺いしたいのが、先ほど連携している課の中に、私はやはり生涯学習課も入れておくべきではないかなというふうに思っております。

というのが、前回6月議会の吉川議員の一般質問の中で、これまで本市の観光は、本市の強みである歴史文化、それから文化財を本市の観光に生かしきれていないという一般質問があったと記憶しております。

そのときの答弁では、本市の歴史文化や文化財を観光資源の一つと認識しているという答弁がありました。

文化的な資源を観光に活用するということであれば、やはり生涯学習課もこのプロジェクトの中に組み込んでいくということが必要ではないかなと思いますけれども、見解をお伺いいたします。

【桂藤議長】

答弁、観光振興課長。

【観光振興課長】

> はい、ご質問にお答えします。答弁の中にもありましたように、現在、観光振興計画の策定とコンソーシアムの構築ということで、基盤整備を進めておるところでございます。

> 主管課を中心にスモールスタートをしているわけでございますが、今後コンソーシアムの構築にあたって運営が具体化した場合、各施策の方向が定まってまいりますので、そういった段階で生涯学習課などの必要な関係部署と連携をしてまいりたいと考えております。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

前回のお答弁でも少しあったと思うんですけれども、生涯学習課としてはこれから文化財保存活用計画というのを策定するということになっておりまして、この計画は文化財の保存だけではなくて活用というところも重要な観点になるというふうな答弁があったと思いますけれども、ですので生涯学習課としても観光というところの活用に関しては連携しておくということは非常に意味の大きいことだと思いますので、ぜひ具体化していった際にはですね連携をしていただきたいというふうに思います。

それからですね私は本市の観光の基盤産業化に向けては公共交通の果たす役割というのが非常に大きくなってくると感じております。

現在本市を訪れる方のほとんどがですね自家用車で訪れているというふうに認識をしておりますが、これから公共交通で本市を訪れる観光客を増やしていくということが必要になると思いますし、それから本市にお越しになられた観光客の方が公共交通を使って本市を周遊していただくということも考えておかなければならないことだと思います。

その点についてやはり地域交通課ともしっかりと密に連絡というか連携を取りながら事業を進めていただきたいと思いますが、そのあたりについてのお考えをお伺いいたします。

【桂藤議長】

> 答弁、観光振興課長。

【観光振興課長】

> はい、ご質問にお答えします。

> コンソーシアム構築の中では分科会として交通体験部会とかいう部会も作ろうと思っておりますので、当然地域交通課も関係部署となってまいりますので、そういった部分で生涯学習課も含め、さまざまな観光に関わっていく部門については、積極的にこの計画に加わっていただきたいと考えております。

國利知史議員

議長。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

専門部会がこれから立ち上がるということなので、その中でやはり生涯学習課、そして地域交通課との連携をしっかりとっていただいて、このプロジェクト始まったばかりですから、今からどういう方向になるかというのはまだわからないと思いますけれども、しっかりと関係部署が連携を取れるような体制を整えていただければと思います。

---

2. 他産業との連携の具体的なイメージと組織体制

國利知史議員

次に移ります。

観光の基盤産業化を推進していくために、農林業と他の産業とも連携して、観光消費額を増加させ、地域外貨を獲得することで、市民の生活を支える産業へ育てるとしております。

他の産業と連携することについて、具体的にどのようなイメージを持っているのか、また、どのような組織体制で連携していくのか、お伺いしたいと思います。

【桂藤議長】

> 答弁、市長。

【八谷市長】

> ご質問にお答えいたします。

> 観光の基盤産業化については、まずは観光客と観光消費額の増加を図り、観光関係事業者の収支の改善や従事者の雇用確保、待遇改善につなげることで、市民生活を支える産業へと育てていくというサイクルを考えております。

> その中で、他産業との連携については、大きく2つの方向性があると考えております。

> 1つは、地域産品の観光客向けの取扱いの拡大、もう1つは、体験の観光コンテンツ化で、連携先の産業は、主には農林業、商工業を想定しております。

> 取り組みを進めるためには、本市ならではの資源を掘り下げ、新たなプロダクト開発、商品のブラッシュアップ等を進める必要がございます。

> その推進の体制としては現在観光の基盤産業化の推進プロジェクトにおいて、立ち上げの準備を進めている観光コンソーシアムを想定しております。

> このコンソーシアムでは観光関係者間の連携と課題の共有などを通じて、観光振興計画に定める目標を達成するための取り組みの具体化を進めることとしております。

> メンバーとして観光農園や林業関係者などにも参画を呼びかける予定であり、多様な関係者の連携の中から新たな知恵を生み出し、効果的な方策を立ててまいりたいと考えております。

> なお、旅行者のニーズは多様化しており、思わぬ体験が価値を持つこともございます。

> 今後の検討の中で可能性があると考えられた分野との連携は、制約を設けず積極的に取り組めばよいと考えております。

國利知史議員

議長。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

今のご答弁ではコンソーシアムがメインになって、これから取り組みが進んでいくということではあると理解をいたしました。

このコンソーシアムを進める上で、まず今立ち上げの段階だと思うんですけれども、これから進めるにあたって、主導して誰が主導して活動を推進していくのか、今リーディングプロジェクトの主要なメンバーが立ち上げて、それを推進していく予定になっているのかどうかお伺いしたいと思います。

【桂藤議長】

> 答弁、観光振興課長。

【観光振興課長】

> ご質問にお答えします。

> このコンソーシアムの構築については、主管課の観光振興課の方が主導でやっておりますが、またDMOの方にも協力を依頼しておりますので、DMOの方と協力をしながら進めているものでございます。

> 今の組織の案としましては運営会議というのを考えておりまして、その中には商工団体とか観光の関係とか、例えば飲食、物販、お土産とか宿泊、または交通体験部会などの人たちを巻き込んで、コンソーシアムを立ち上げていこうというのが今回の計画となっております。

> 以上。

國利知史議員

庄原DMOと一緒に取り組みを進めるということですが、これはずっと一緒に取り組んでいくという理解でよろしいでしょうか。

【桂藤議長】

> 答弁、観光振興課長。

【観光振興課長】

> はい、ご質問にお答えします。

> 今回、このコンソーシアムをDMOと庄原市で一緒に立ち上げて、この立ち上げた後の来年度からはDMOの方が、こちらのコンソーシアムの運営、旗振りをですね、になっていただくように考えております。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

来年度からDMOを主体で進めていくということになるということなんですけれども、庄原DMOといいますかDMO本来の目的というのは観光経営の指令といいますか、観光の取りまとめを行っていくというのが本来の目的だと思いますので、これから来年度からは本来の目的を達成といいますか、役割的にはそれを果たしていくということだと思います。

それでDMOが主体となって進めていくということですけれども、先ほど第一次産業がコンソーシアムの中で商工業も含まれますけれども、主には第一次産業との連携というのがメインというか強くなってくるんじゃないかなというふうに思いますけれども、そのコンソーシアムも通じてどのような内容、先ほどちょっとご説明ありましたけれども、どのような内容を議論していくのか、そしてゴールはどこに設定してこの取り組みを進めていくのかを伺いしたいと思います。

【桂藤議長】

> 答弁、商工振興課長、観光振興課長、西城さん。

【観光振興課長】

> ご質問にお答えします。

> どのようなことをしていくかというご質問ですが、観光コンソーシアムを立ち上げていくのは、観光消費額を押し上げていって地域が潤っていくような、市長の答弁にもありましたように、第一答弁でもありましたように、に進めていくように考えております。

> 観光の消費額が上がっていくことにつれて、雇用も増えていき、その雇用も維持できて、またそこに関わっていく人がどんどん増えていって、地域の経済が循環していくようなことを考えております。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

はい、観光消費額が上がっていくと、そして雇用が生まれて活性化していくというところがゴール地点なのかなというふうに認識をいたしました。

それで活動的にはですね、それぞれの観光プロダクトを構築していくということでおっしゃいましたけれども、なんとなくイメージをつかめきれていないところがあるんですが、例えば農業であれば農業体験を取り入れたプログラムを作っていくとか、酪農であれば搾乳体験をプログラムに取り入れるとか、そういった日常の庄原で行われている日常の仕事を体験してもらうようなイメージになるのかどうかお伺いしたいと思います。

【桂藤議長】

> 答弁、観光振興課長。

【観光振興課長】

> ご質問にお答えします。
>
> この観光コンソーシアムの中では交通体験部会とかいうふうな部会を作っておりますので、そういったところに農業とか酪農とかのところも入っていただいて、そういった議論を進めていって横展開をしていきたいと考えております。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

部会によって横展開をしていくということで、なんとなく私もイメージがだんだんつかめてきたというところでございますが、先ほども明日に取り組み始まったばかりでやりながら修正していくというところにはなろうかなと思いますので、しっかりとお話をしていただきながら進めていただきたいと思います。

市長は就任当初から市民の意見を聞きながら市政に反映していくということをおっしゃっておりましたので、このコンソーシアムでさまざまな事業者の方と共同した取組の中で市民の意見を取り入れて事業を遂行していくということは、市長が常々言われていたことが少しずつ実現していっているのかなということで期待はしておりますが、ただ他の産業の方々は本業とは別の取り組みとして参画されるわけなので、本業に支障のないようにしっかりと目的それから内容ですよね、そしてゴールをしっかりと明確にした取り組みにしていただかないといけないなと思いますが、改めて見解を伺いたします。

【桂藤議長】

> 答弁、産業振興部長。

【産業振興部長】

> ご質問にお答えいたします。
>
> 議員ご指摘のとおりでございまして、しっかりゴールをお示ししながら、コンソーシアムの取り組みを進めてまいりたいと考えておりますが、本業でないところで参加をいただく部分もありますが、宿泊でありますとか交通でありますとか、飲食の関係の方にも参加をいただきますので、その方自身が自分の業に利益が出るような形で行くにはどのような連携ができるのかといったところも、しっかりコンソーシアムの中で連携を図りながら、例えば先ほどありました体験と宿泊と飲食を組み合わせるというよう

なことも、事業者間の中で連携が取れれば消費拡大につながっていくものというふうに考えておりますので、そうした観点でしっかりと進めていきたいというふうに考えております。

【桂藤議長】

國利知史議員。

國利知史議員

リーディングプロジェクト、観光の基盤産業化に向けたリーディングプロジェクトということで、私どもも期待をしておりますので、ぜひより良い活動になるように取り組みを推進していただきたいと思います。

---

3. 第2期観光振興計画の総括と本市観光産業の課題

國利知史議員

次に移ります。

現在第3期観光振興計画を作成中でありますが、第2期観光振興計画をどのように総括しているか、また本市における観光産業の課題はどこにあるのか、その課題をどのように次期計画に反映していくのかお伺いしたいと思います。

【桂藤議長】

答弁、市長。

【八谷市長】

ご質問にお答えいたします。

第2期観光振興計画の総括については、統計数値の整理や事業者へのアンケート、聞き取り調査等により実施してまいりました。

その結果、第2期計画の内容については、効果が見込まれると思われる事項を施策として網羅できていたと考えておりますが、計画期間の多くがコロナ禍と重なっていたため、計画に描いた内容が十分に展開できないという状況がございました。

またこの度実施した事業者に対する調査では計画の内容が十分に周知できていなかった状況が浮かび上がっております。

加えて庄原版DMOを立ち上げて関係者の合意形成、データに基づくマーケティング戦略策定等に取り組むこととしておりましたが、市とDMOの役割分担のすり合わせ不足などからコロナ禍の影響を差し引いても結果として取り組みに不十分な点が生じておりました。

こうした要因もあり成果の面で特に主要な指標となる来訪者数、消費額はともにコロナ禍後一定程度は回復しておりますが、以前の水準にはまだ到達できていない状況です。

> 第2期の総括から、第3期計画で解決すべき最大の課題としては、改めて関係者間で目標を共有した上で、目標達成に向けて協力できる連携体制をつくり、計画で描いた内容を着実に実行することであると考えております。

> そのための枠組みとして現在観光コンソーシアムの立ち上げを進めており、この運営を庄原DMOが担っていけるようDMO事業の再構築についても検討を行っているところです。

> 第三期計画にはこうした内容を盛り込むとともに計画策定後の推進体制を構築することで、観光の基盤産業化に向け、宿泊客の増加や本市ならではの資源を生かしたコンテンツの造成といった観光消費額を押し上げる政策を力強く押し進めていく所存です。

> 以上。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

様々な原因があるということで、コロナ禍だったというところもあって、ある程度は仕方ないところもあるんだとは思うんですが、私がちょっと気になったのが第2期観光振興計画が観光に携わる事業者さんなどに浸透していなかったというところがちょっと一番引っかかるところではありますけれども、浸透していなかったということはあってはならないことだとは思うんですけれども、先ほどのご答弁でいうと第3期観光振興計画はコンソーシアムで、そして様々な皆様と一緒に協力しながら事業を進めることによって、第3期の計画を浸透させていきたいという答弁でよろしかったでしょうか。

【桂藤議長】

> 答弁、観光振興課長。

【観光振興課長】

> ご質問にお答えします。

> 第2期の計画があまり浸透していなかったという部分も反省も踏まえて、今回はこのコンソーシアムを立ち上げて、皆さんと同じような気持ちになって、観光消費額を上げていく取り組みを進めていくように考えております。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

コンソーシアムに参加されなかった事業者さんとかにも、やはり周知といいますか、計画が浸透するように、その他のプロモーションであったりとか働きかけというところも考えていただきたいというふうに思います。

それで第2期観光振興計画の期間ですけれども、2019年から2023年の5年間でありましたけれども、現在策定中の第3期観光振興計画が本来よりも3年間遅れているというふうに認識しております。

本来でしたら切れ目なく次の年から新しい計画がスタートするということになると思うんですけれども、3年遅れているということについてどのようなお考えを持ちかお伺いしたいと思います。

【桂藤議長】

> 答弁、観光振興課長。

【観光振興課長】

> ご質問にお答えします。
>
> 3年間計画がなぜ空いたかというご質問ですが、コロナがあったことも原因とはなっておりますが、また、観光振興計画の位置づけや必要について、市の組織内で十分な共通認識が形成できなくて、なかなか進まなかったという部分がございます。
>
> ですので、今回はそういうことのないように進めていきたいと思っております。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

私としてもそこは反省材料だというふうな認識をお持ちだということだと思うんですが、この3年遅れることによってその他の計画とのずれも生じてくるというふうに私は思っています。

第2期観光振興計画は広島県の広島観光立県推進基本計画を踏まえて策定されているというふうに認識をしておりますけれども、現行の広島観光立県推進基本計画は令和9年度で終了ということになっています。

現在次の計画の令和10年度からの次期計画に向けての観光立県推進会議で、様々検討されているというふうに認識をしております。

本市の第3期観光振興計画がこの広島観光立県推進基本計画を踏まえて作成するということであれば、この広島観光立県推進基本計画、残り1年半を切ったところでございますけれども、言ってみれば、ちょっと古い計画を新しい庄原市の計画に採用するということになると思うんですけれども、そのあたり、どのようなお考えかお伺いしたいと思います。

【桂藤議長】

> 答弁、観光振興課長。

【観光振興課長】

> はい、ご質問にお答えします。
>
> 県の計画とずれが生じるんじゃないかということですが、基本的な部分は連動したものとはするとは思いますが、新たに第3期振興計画の中では取り組んでいくものが多いと考えております。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

ちょっとわからないところがあったんですけれども、この広島観光立県推進計画は、この広島県全体の観光の指針となる計画だと私は理解しておりますので、令和10年度から新しい計画が出たものを再度、庄原市の計画に反映し直すというのは難しいところだと思いますので、そのあたりしっかりと議論していただいて、協議していただいて、その取扱いについても話をして考えていただければと思います。

それからですね、現在広島県では多くのインバウンド客が世界中から訪れています。

今日の中国新聞一面にも出ておりましたけれども、中国地方での宿泊が過去最多になったというニュースも一面に出ておりました。

しかしながら本市においてはほとんど外国人の観光客を目にすることがございません。

第2期観光振興計画の中には、外国人観光客の受入れに向けた体制の整備に取り組みます、というふうなことがございましたけれども、外国人観光客の誘客につながっていないというのも、第2期観光振興計画の反省点になるのかなと思います。

この件について今後第3期観光振興計画における、インバウンドの対応についてお考えをお伺いいたします。

【桂藤議長】

> 答弁、観光振興課長。

【観光振興課長】

> はい、ご質問にお答えします。
>
> インバウンドについては第2期計画では一定の取り組みは実施してまいりましたが、十分な目に見える成果につながっていなかったという部分はあろうかと思います。
>
> 第3期観光計画の中でインバウンドの取り組みについてですが、インバウンドどこをターゲットにするのかという部分があろうかと思います。
>
> 国によって求めているものが違いますので、庄原市の資源で、どこの国にターゲットを絞って取り組んでいくかによって、インバウンドの動向は変わってくると思いますので、そういった部分も今後研究をしながら、ターゲットを絞り込んでインバウンドについては取り組みを進めてまいりたいと思います。
>
> 以上。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

インバウンド、本市の資源がどこの国に合っているのかというようなことも考えていくということでございましたけれども、本市においてはですね、日本神話、イザナミ、イザナキの日本神話ですとか、タタラの文化、それから日本の原風景がたくさん残っている、棚田含めですね、やり方によっては本当に外国人観光客に刺さる観光コンテンツがたくさんあると思いますので、例えばですね日本の伝統文化を体験させ

てもらうようなコンテンツですね、田植えだったり稲刈りを外国人向けにプログラムを作っていくとかですね、そういう本市だけで日本の文化を体験してもらうようなコンテンツを具体化していくということも、これからの第3期観光振興計画では必要になってくるんじゃないかなと感じますが、お考えをお伺いいたします。

【桂藤議長】

> 答弁、観光振興課長。

【観光振興課長】

> ご質問にお答えします。

> 議員のご提案のとおり体験を重視する国もございますので、そういった日本の文化を体験できるようなコンテンツの開発も進めていきたいとは考えております。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

ぜひインバウンド向けのコンテンツもしっかり充実していただけるようにお願いしておきます。

それでインバウンドに関しては本当に私可能性しか感じない、今来てないわけですから可能性しか感じないところではありますけれども、インバウンドを取り込むことで観光消費額の向上にもつながります。

しっかりとですね、次期観光振興計画に反映していただきたいというふうに思います。

それでインバウンドを誘致するということはもちろん宿泊も伴ってきます。

宿泊に関して言えばインバウンドだけではないんですけれども、低迷する観光消費額を上げていくと今ご答弁でもありましたけれども、そのためにはやはり宿泊を伸ばしていくことが重要ということになりますし、本市もその件については理解をしていらっしゃいます。

宿泊場所に関してですけれども、やはりラフォーレ・庄原ですとか、コミンカステイズのように本市の核になる宿泊施設の強化ですとか、プロモーションももちろんこれは必要だと思いますけれども、そうではなくて長屋でずっと個人それから家族で細々と言ったらあれですけど、あまり表には出ていないけれどもすごく魅力がある宿泊施設というのが本市にはまだまだたくさんありますので、そういったところの小さな宿の掘り起こしとか強化というところも、これから考えていかなければならないというふうに私は思いますが見解をお伺いいたします。

【桂藤議長】

> 答弁、観光振興課長。

【観光振興課長】

> 第2期観光振興計画の中でも、古民家、農家、民宿、ゲストハウス等の地域住民等の交流が楽しめる宿泊施設の整備の向上を目指していきますというふうに書いてございました。

そういった部分についても取り組みが不十分なところがございましたので、そういったところも今後は伸ばしていく必要があると思っています。

施設数とか集客という点では、決して十分な宿泊があるとはあることにもなっていませんが、稼働率についてはまだ伸びしろがあると思いますので、そういった部分について、既存施設への送客なんかも、今後、観光コンソーシアムの中では重要な役割になってくるのではないかと考えております。

【桂藤議長】

國利知史議員。

國利知史議員

個人でやられているところにもしっかりとスポットライトが当たるように、これから第3期観光振興計画、本当に観光の基盤産業化には必要になってくる大切な計画だと思いますので、しっかりと議論をして進めていただきたいと思います。

---

4. 本市の魅力と特性を最大限に生かす観光戦略

國利知史議員

それでは最後の項目に移ります。

中国山地の中央に位置する本市においては、恵まれた自然環境や立地特性、また食文化等の特徴を最大限に生かすことで、他地域と比べ比較優位に立つための観光戦略が実現できると考えます。

沿岸部や都市部にはない本市の魅力や特性を最大限に生かす取り組みが必要と考えますが、見解をお伺いいたします。

【桂藤議長】

答弁、市長。

【八谷市長】

ご質問にお答えいたします。

本市は中国山地の中央に位置し、自然環境やこの土地ならではの文化、食材にも恵まれており、これらは本市観光の大きな強みであると認識しております。

その一方で、豊かな自然や独自の文化は、全国の多くの中山間地域が持ち合わせており、それだけでは差別化を図ることができないのも事実でございます。

重要なのは、本市ならではの資源の独自性をさらに深く掘り下げ、それを誰にどのように届けるかというマーケティングの視点です。

現在策定中の第3期観光振興計画及び観光消費額増加のための戦略においても、この考え方を中核に据え、観光の基盤産業化の実現を目指してまいります。

> 新たに組織する観光コンソーシアムではまさにこの点について参画いただいた皆様とまず認識を共有し一体となって取り組みを進めてまいりたいと考えております。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

おっしゃるとおり立地特性だけでいうと全国立地特性とか自然環境だけでは勝負できないところがあるというふうに認識を持たれているということなんですが、その辺りについてもコンソーシアムにおいて議論を進めていくということだと思います。

それで立地特性で言いますと先ほど言われましたように中国地方のど真ん中で、中国自動車道と尾道松江線が通っていて、九州、関西、西日本の様々な場所から車で来るには非常に立地がいい場所であるという特性があると思います。

さらにですね、ひば道後山高原荘ですとか、道後山高原合宿センター、笠ベルで、大川里、ラフォーレ、庄原など、スポーツ施設に隣接した宿泊施設が多いことから、地域特性を生かしてですね、私はスポーツ合宿に力を入れていくべきと思いますけれども、そのあたりのご見解をお伺いいたします。

【桂藤議長】

> 答弁、観光振興課長。

【観光振興課長】

> ご質問にお答えします。

> スポーツ合宿に力を入れたらどうかというご質問ですが、第2期の観光振興計画でもスポーツ合宿を力を入れるというふうに表示してありましたが、実際に取り組みを行ったのは令和6年度に至学館大学が来られたときに、部活のコーチとか顧問を庄原に招いて視察をしていただいてアドバイスを受けたという経緯もありますが、それ以降それ以上のことはございませんでした。

> 合宿を受け入れるにあたって施設もたくさんございますのでそういった取り組みはできるとは思いますが、そのスポーツ合宿がどういうふうに観光消費額に結びついていくかというところも、今後研究をしながら取り組みを進めていきたいと考えております。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

確かに第2期観光振興計画にスポーツ合宿に力を入れていくというふうなことは書いてあります。

しかしながら結果としては十分得られていないということだと思います。

私は同じような質問を令和6年6月の定例会で一般質問しています。

スポーツ合宿の誘致に力を入れていくべきではないかというような質問をさせていただいております。

その時の答弁では合宿誘致にもつながる取り組みを進めることにしています、スポーツ施設等の環境整備やソフト面の支援策などの検討を行っていくという答弁がありましたけれども、その後、合宿誘致、結果は出ていないということではございましたけれども、合宿誘致の推進に関して何か検討されたことがあるのかどうかをお伺いしたいと思います。

【桂藤議長】

> 答弁、観光振興課長。

【観光振興課長】

> はい、ご質問にお答えします。
>
> 合宿誘致について検討したのかという質問ですが、具体的にですね、それ以降検討したということはございません。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

第2期観光振興計画にスポーツ合宿を推進していくと書いてある、そして私の一般質問に検討するというふうな答弁があるということではあったんですけれども、結果として何も議論はされていないということで非常に残念に思います。

合宿誘致は今観光消費額にどのように影響してくるかということの答弁がありましたけれども、関係人口の増加には間違いなくつながることでございますので、そういう観光消費額はもちろん大事なんですけれども、観光客、関係人口をいかに増やすかというところも非常に重要になってくると思いますので、第3期観光振興計画においてはこのスポーツ合宿、スポーツだけではないですけれども、文化的な合宿も含めてしっかりと議論をしていただきたいというふうに思います。

次に豊かな自然環境を生かした取り組みというところで言えば、我々会派NEXTとしては以前から自転車による地域活性化、それから街づくりに関して研究をしてまいりました。

個人的にはまだこれ一般質問ですけど、令和3年12月、令和6年9月において自転車の活用による街づくりに関して、一般質問をさせていただいております。

我々が注目する自転車は様々な種類がありますけれども、主にロードバイクでのサイクリングによる地域の活性化に関して言えば、先ほど全国他にもたくさんあると言われましたけれども、この活動においては全国他の自治体でも様々な取り組みが行われております。

ですので本市においては恵まれた自然環境、特に森林資源を生かしてマウンテンバイクによる観光施策を実施して地域活性化を図っていくことが、これからの本市の観光にとって非常に重要になってくるというふうに考えております。

本市におけるマウンテンバイクを活用した観光コンテンツの造成、それから地域活性化についてどのようなお考えがあるのかお伺いしたいと思います。

【桂藤議長】

> 答弁、観光振興課長。

【観光振興課長】

> ご質問にお答えします。マウンテンバイクを活用したのをどういうふうに考えているかという質問ですが、このマウンテンバイクについては、現在どのような活用ができるかというのをですね、先進地に視察等も行っておりますので、現在研究中ということになっておりますので、そういった研究を進める中でどういうふうな取り組みができるかというのを今後進めていきたいと考えます。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

現在検討中というところだという答弁がありましたけれども、これはですね、国においてはですね、令和8年5月、今年の5月に閣議決定されました第3次自転車活用推進計画というのがあるんですが、そこにマウンテンバイクの活用促進についての内容が正式に明記されております。

また広島県においてもこの計画の策定を受けて、次期広島県自転車活用推進計画に反映されるということも聞いております。

それから少し前ですけれども、広島県として県北部の豊富な森林資源を活用した、観光によるマウンテンバイクの取り組みを強化していくと、これは宿泊税を利用して強化していくというような、中国新聞の報道もありました。

このように広島県が主導するこの事業、これは県が主導しているこの事業に関しては、全国で他に例がない事業でございます。

ですので全国初の取り組みということで、国も非常に注目している事業ということです。

この取り組みに本市として積極的に関わって、主体的に取り組んでいくことは非常にメリットがある事業だと感じますけれども、改めて見解をお伺いいたします。

【桂藤議長】

> 答弁、観光振興課長。

【観光振興課長】

> ご質問にお答えします。
>
> 県も取り組んでいて非常にメリットがあるという提案でございます。
>
> 先ほど答弁もしましたが現在マウンテンバイクの活用について調査研究をしている段階でございますので、そういったこれからどういうふうに進めていくかということについて、今から観光振興会の中で考えていきたいと考えております。

國利知史議員

議長。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

はい、観光振興会の中で考えていくということでありますけれども、先ほどから私メリットメリットということを言っておりますけれども、具体的にはどういう効果があるのかというところで、私は先日マウンテンバイクを活用した地域課題の解決に取り組む先進地視察として、山梨県の市川三郷町という場所に視察に行ってまいりました。

この市川三郷町ではマウンテンバイクを活用した町づくりに関しての取り組みを行うことで、新たな観光コンテンツの造成、関係人口の増加、インバウンドの増加、それから森林環境の保全につながっているということをおっしゃっていました。

それからまた山に人が入ることによって、獣害被害の軽減、それからゴミの不法投棄の減少など、観光以外の部分でも効果が現れていることを、これはまだ始まったばかりですから、効果としてはまだ認められていないけれども、期待はしているということで言われておりました。

それから先ほど言いました、国が閣議決定した第3次自転車活用推進計画の中には、防災の面でも今後マウンテンバイクを活用していくということが明記されました。

ですので今後は防災の面でも活用するということを視野に入れた計画を、街で作っていって推進していきたいという話もされておりました。

様々な効果といいますかメリットがあるという、このマウンテンバイクを活用した取り組みを実施することで、先ほどリーディングプロジェクトで他の産業との連携というところの話も出ましたけれども、この取り組みを推進していくことで林業との関わりというのが持てると思いますし、ピースフルに掲げる観光の基盤産業化に向けてこれは起爆剤になる可能性があると思います。

また観光以外の部分でも課題解決につながるということで、ということで、こういった様々なメリットがあるこの事業でございますけれども、私は広島県とともに取り組みを推進していくべきというふうに改めてお伝えしたいのですが、市長はどのようにお考えになられているのかお伺いしたいと思います。

【桂藤議長】

> 答弁、産業振興部長。

【産業振興部長】

> ご質問にお答えいたします。
>
> 自転車、マウンテンバイクの取り組みのメリットが多いということで、しっかり進めてはどうかというご提案でございますけれども、先ほど市長答弁にもありましたように、一つの魅力になっていくもので

> 幅広に連携が取れるのではないかということでございますけれども、本市の独自性をしっかり掘り下げるという作業をまずはしていかなくてはいけないかなというふうに思っております。

> そしてマーケティングという視点というのが市長答弁にもありましたけれども、誰にどのように届けていくのかといったところの検討をしっかりした上で取り組みに進んでいくという形になってこようかなというふうに思っております。

> 具体的には、先ほど来答弁しておりますけれども、コンソーシアムの中で部会も設けてまいりますので、体験部会等もございますので、そうした中でしっかり議論をしていくことになろうかというふうに考えております。

國利知史議員

市長。

【桂藤議長】

> 國利知史議員。

國利知史議員

市長はこれまで長く林業に携わってこられて山で仕事をされてこられましたので、ここはこの質問は市長からの答弁が返ってくるというふうに思っておりましたけれども、返ってきませんでしたので非常に残念に思っています。

この自転車を活用した広島県の取り組みというのはこれまでしまなみ海道を中心に展開されてきました。

その結果、瀬戸内エリアがロードバイクのサイクリストの聖地として地位を確立してきまして、世界中から多くのサイクリストが訪れ、大きな経済効果を生んでいます。

ここまで来るのに、副市長よくご存知だと思うんですけれども、この事業は10年以上かかっている。

この10年以上前に広島県が種をまいた事業がゆっくり芽が出てきて、10年かけてその取り組みを続けていた自治体に大きな実がなっているという状況だと思います。

このマウンテンバイクを活用した事業に関しては、県が今種まきを行っている状況だというふうに理解をしております。

この早い段階に事業に参画することで、これまで本市の事業としては2番煎じ3番煎じ、他のモデル事業、自治体の事業をモデルに取り組んだ事業がたくさんあったと思いますけれども、この早い時期に取り組んでおくということで、やっぱり全国の先進事例として今までにない取り組みとして、庄原市が注目されるということにもつながると思います。

ですので先ほどメリットたくさんありますよということを申し上げましたけれども、その他、先ほど部長の答弁にもありましたように、どういうところにプロモーションしていくかとか、どういう効果があるのかというところをしっかりとコンソーシアムを通じて議論をしていただいて、ぜひこのマウンテンパークを活用した県の事業に積極的に参画していただくようにお伝えして、私の質問を終わります。

【桂藤議長】

> 以上で國利知史議員の質問を終わります。

> この際暫時休憩いたします。

> 再開は午後1時といたします。

[音声終了]